

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立あきる野学園 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成
主幹教諭1名＝事務局長、経営企画室事務主事1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長3名、経営企画室長、主幹教諭6名 主任教諭 4名 計15名
- (4) 協議委員の構成
保護者代表1名、施設職員1名、近隣幼稚園長1名、近隣小学校長1名、近隣中学校長1名、
就労支援機関職員1名、生活支援機関職員1名、サービス提供事業所2名、医療機関職員1名、
学識経験者1名 計11名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催内容等

- ア 第1回：令和6年6月15日（土） 内部委員11名、協議委員10名
 - ・協議委員の委嘱、委員紹介
 - ・令和6年度学校運営連絡協議会実施計画について
 - ・令和6年度学校経営計画について
 - ・道徳地区公開講座 授業視察
 - ・意見交換
- イ 第2回：令和6年10月22日（火） 内部委員11名、協議委員9名
 - ・令和6年度学校経営計画進捗状況報告
 - ・令和6年度学校評価アンケート中間報告
 - ・意見交換
- ウ 第3回：令和7年1月28日（火） 内部委員10名、協議委員8名
 - ・令和6年度学校経営報告及び学校評価報告
 - ・令和6年度学校経営の方向概要の説明
 - ・意見交換

(2) 評価委員会

- ア 第1回：令和6年6月15日（土） 内部委員6名、評価委員3名
 - ・昨年度の学校評価結果について
 - ・今年度の評価計画及びアンケート（案）について
 - ・意見交換
- イ 第2回：令和6年10月22日（火） 内部委員6名、評価委員3名
 - ・令和5年度学校評価アンケート中間報告と分析
 - ・意見交換
- ウ 第3回：令和7年1月28日（火） 内部委員5名、評価委員3名
 - ・学校評価の総括
 - ・学校評価の評価、改善に向けて

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の観点

「保護者」、「児童・生徒」、「教職員」、「関係諸機関」の観点でアンケートを実施する。

(2) アンケートの実施時期、対象、規模

9月	全校児童・生徒	：対象：299人	回収：217人	回収率：72.6%
9月	全校保護者	：対象：299人	回収：124人	回収率：40.8%
9月	関係諸機関	：対象：61か所	回収：44か所	回収率：72.1%
9月	教職員	：対象：147人	回収：141人	回収率：95.9%

(3) 主な評価項目

- ・学校経営計画に基づき、人権尊重を基本姿勢とし、「分かって楽しい★あきる野学園」をテーマに、①児童・生徒の学びの充実、②保護者とのパートナーシップの充実、③地域に貢献し、地域の信頼を得るネットワークの構築、④教職員が生き生きと働き、誇りとやりがいのある職場へと成長」の4つの視点で評価項目を設定した。

(4) 評価結果の概要

・児童・生徒評価

回答率は72.6%と昨年度(63%)より上がった。「学校が楽しい」との回答は約90%で、昨年度とほぼ横ばいの結果。授業に関する設問は、A部門で座学の教科が「楽しい」という回答が70%未満、B部門では全教科で約70%という結果。「未記入」や「どちらともいえない」の回答が多かった。学校生活に関する設問は、「友達にいやなことをされて、学校に行きたくないと思ったことがある」の項目が昨年度より3.1%改善。一方「困っている時に助けてしかった」「話を聞いてほしい」という声も寄せられた。

・保護者評価

40.8%と非常に低い回収率。この回収率を真摯に受け止め、改善の取り組みを進める。昨年度よりもアンケートの得点が低かった項目は、「12 横の連携」「11 前年度からの引継ぎ」などの5項目。自由意見からは、保護者との交流や教員との交流機会の充実、学校での子供たちの様子が分かると嬉しい、Teams のコンテンツが思ったよりも入っていなかった、などの意見が寄せられた。

・教職員評価

「人権を尊重した指導(96.1点)」「保護者の悩みや相談に真摯に対応(96.2点)」については得点が高かった。「定時退庁日や勤務時間の意識(76.4点)」「心身ともに健康に仕事(80.7点)」であった。保護者評価と教職員評価に差がある項目は、「教科学習の充実」、「障害特性や個に応じた教育」と、「個別指導計画は分かりやすく適切な内容か」の2点。教科学習の充実や個に応じた指導については、教職員の自己評価が高くなった。保護者の得点も+3.1ポイントと伸びており、高い評価を得られた。

・関係諸機関評価

関係機関は13件の依頼に対して6件の回答。「ホームページはわかりやすい情報提供になっていると思いますか」の設問について、得点が低かった。自由記述では授業参観や行事の参観を求める声が複数挙がった。放課後等デイサービス事業所は31件の依頼に対して22件の回答。「本校と貴所は日常的に児童・生徒の相談をできていますか」の設問について、得点が低かった。自由記述からは、連携強化のための情報交換の場、学校を見る機会を増やしてほしいなどの意見が寄せられた。進路先の事業所は27件の依頼に対して16件の回答。「本校は卒業後のアフターケアや卒業生への対応は適切にできていますか」の設問に対して-10.4ポイントと低かった。「社会への移行や社会人の生活に向けて、学校で指導すべき内容」の設問については、コミュニケーション能力や基本的なマナー、集団適応を重視した支援についての意見が多くみられた。

(5) 評価結果の分析・考察

・児童・生徒評価

「学校が楽しい」「授業が分かって楽しい」についてのパーセンテージを上げていく取り組みが必要。また、アンケート回答の際に保護者が支援することが多いと考えられるが、「子どもの学習の様子が分からない」ということも一因と考えられ、子どもの学習の様子を保護者とどうやって共有するか、という取り組みが重要であるとする。「困っている時に助けてしかった」「話を聞いてほしい」という声には真摯に対応していく必要がある。

・保護者評価

低い回収率の原因は、Office 365にサインインすることができず、アンケートに回答できなかったケースが多かったと考えられる。また、保護者によるTeamsの活用が思うように進んでいなかった。次年度のアンケート実施方法については戦略的に行っていく。障害の特性に配慮した指導の確実な「引継ぎ」が大切であること、保護者にとって教職員が「連携」している

様子が分かるような工夫や、キャリアパスポートの取り組みなどキャリア教育についての保護者への情報提供の充実が必要である、ということが考えられる。

・教職員評価

教科学習の充実や個に応じた指導については、教職員アンケートの主語を「学校は」から「私は」に変更したため、得点が高くなったことが考えられる。教職員の自己評価は高くなったが、保護者の得点も伸びており、評価されていると言える。教職員は「対応できている」「保護者に丁寧に伝えられている」と自己評価が高くなっているが、必ずしもそうは伝わっていない部分は課題である

・関係諸機関評価

情報提供の方法や時期について、改善の余地がある。計画的な情報提供や、場の設定を行っていく必要がある。また、卒業後のアフターケアや卒業生への対応は今後も丁寧な対応が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1)学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価アンケートの項目や設問の改善
- ・保護者や地域への配布物や情報提供の質・量が充実
- ・少ない回収率ながらも、保護者からは学校経営について高い評価を得た
- ・児童・生徒の教科学習の充実

(2)学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校評価アンケートの回収方法、回収率の改善
- ・自立活動の指導の充実の必要性
- ・支援計画の家庭、学校、地域との共有

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- ・児童・生徒の学びの更なる充実
- ・保護者との強固なパートナーシップの維持
- ・地域に貢献し、地域の信頼を得るネットワークの構築
- ・教職員がいきいきと働き、誇りとやりがいのある職場の確立
- ・変動時間割制の教育課程の推進と、保護者・地域への理解啓発